

## 第 32 回岩手県文化芸術振興審議会

日 時：令和 4 年 2 月 14 日（月） 13 時 30 分 ～ 15 時 15 分  
場 所：Web 開催

## 1 開会

### ○文化振興課総括課長

それでは、ただいまから第 32 回岩手県文化芸術振興審議会を開催いたします。私は岩手県文化スポーツ部文化振興課総括課長の岡部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日まで出席いただいている委員は、委員総数 16 名のうち、15 名出席となり、定足数を満たしておりますので、岩手県文化芸術振興基本条例第 24 条第 2 項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

開会前に御連絡申し上げます。新しい委員を御紹介いたします。五日市健委員が、令和 3 年 3 月 31 日をもって辞任されたことから、後任に、上柿剛委員に就任いただいておりますことを御紹介申し上げます。上柿委員どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたり、文化スポーツ部長から、ご挨拶を申し上げます。

## 2 挨拶

### ○文化スポーツ部長

皆様こんにちは。県の文化スポーツ部長の熊谷です。第 32 回岩手県文化芸術振興審議会の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

本日はご多用のところ、ご出席を賜り、心より感謝申し上げます。

また日頃から本県文化芸術振興にご支援ご協力をいただいておりますこと、厚く御礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、文化芸術分野におきまして、活動に大きな影響を受けている状況にあります。

このような中で、県では、文化芸術団体の活動支援策や、コロナ禍においても文化芸術を鑑賞する機会を提供するための施策と、文化芸術活動が継続できるよう、取組を進めて参りました。

本日は、岩手県民計画第 1 期アクションプランの進捗状況についてご報告申し上げるとともに、来年度の主要事業についてご説明をしたいと思います。

本日はリモートでの開催になり、限られた時間でございますが、委員の皆様におかれましては忌憚のないご意見をちょうだいしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 3 議事

### ○文化振興課総括課長

続きまして、議事に入りますが、条例第 23 条第 2 項の規定により会長が議長となることとなっておりますので、以後の進行は高橋会長にお願いいたします。よろしく申し上げます。

### ○高橋嘉行委員長

皆様こんにちは。高橋でございます。それでは議長役を務めさせていただきたいと思っております。本日の予定でございますけれども、この議事の時間は 15 時を目途に終了したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(出席委員から「はい」との回答)

どうぞよろしくお願いいたします。

## (1) 協議

ア 「いわて県民計画（2019～2028）」第1期アクションプランの進捗状況について

イ 「第3期岩手県文化芸術振興指針」に基づく令和3年度の取組状況について

### ○高橋嘉行委員長

それでは早速、「3 議事」に入りたいと思います。(1)の協議でございますが、このうち、アの「岩手県民計画第1期アクションプランの進捗状況について」と、イの「第3期岩手県文化芸術振興指針」に基づく令和3年度の取組状況について」につきましてもは関連がございますので、一括して事務局から説明をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(出席委員から「はい」との回答)

それでは、事務局よりよろしくお願い致します。

### ○事務局（文化芸術担当課長）

(資料1及び2に基づき説明)

### ○高橋嘉行委員長

ただいまの説明に対しまして、委員の皆さんからご質問、ご意見等があればよろしくお願いいたします。

積極的にご発言をお願いいたしますどうかございませんでしょうか。

### ○本村健太委員

ご説明ありがとうございました。質問というよりも、感想というか、今後のお願い的なものになるのかな、と思います。

最後にありました新型コロナウイルス感染症対策事業について、今回のこの会合もそうですが、リモートのノウハウといいますか、そうしたものは新型コロナ感染症が収束してからも有効に活用できる部分が結構あるのではないかと思います。このノウハウを文化芸術に関わるグループとか、あるいは個人に対して提供するような、そういった支援を今後も続けていかれるといいのではないかと思います。感想とお願いでした。

### ○高橋嘉行委員長

ありがとうございました。事務局、よろしくお願い致します。

### ○事務局（文化芸術担当課長）

この後に令和4年度の県の予算についてご説明いたしますが、県の取組として今デジタル化というのが大きな流れの一つになっておりますので、そういったことも踏まえつつ、文化振興課で実施している研修なども活用しながら、文化芸術団体、文化芸術活動のデジタル化、オンライン配信についても考えていきたいと思っています。

### ○本村健太委員

デジタルトランスフォーメーションと親和性のある部分も多いかと思いますが、今後ともよろしくお願い致します。

### ○高橋嘉行委員長

他にございませんでしょうか。

### ○増淵敏之委員

この2年間コロナ禍でいろいろ大変だったかと思います。イベントに関してですが、地区によって対応がバラバラなのだな、ということが今になって改めてわかりました。例えばPCR検査を義務づけられている地区もありますが、そうなると、検査に予算が相当かかる、どうするか、という話が議論となることもあります。岩手県さんではどういう考え方なのかな、というのをちょっとお聞きしたいなと思いました。

### ○高橋嘉行委員長

それではお願いします。

### ○事務局（文化芸術担当課長）

先ほどの説明で、文化芸術活動の支援事業というものに触れさせていただきましたが、そうした事業の中でも、感染対策にも活用できるメニューとなっておりますので、イベントの性質に応じて、そういった助成事業を活用してもらうといった形で対応していただければと考えてます。

### ○増淵敏之委員

ありがとうございます。野外イベントで検査をすると相当な予算がかかると聞きましたので、その辺り、いろいろご配慮のうえ、考えていただければと思います。

以上でございます。

### ○高橋嘉行委員長

ありがとうございます。他の委員さん、ございませんでしょうか。先ほどの説明のアクションプランの進捗状況、それから文化芸術指針の取組状況、どちらでも結構ですので、それに関連することで、委員さん方が普段思っているようなこと等ある場合など、お願いします。

それでは、柴田委員さん、よろしく願いいたします。

### ○柴田和子委員

「岩手芸術祭」では皆様方から大変ご協力をいただき、困難な中、無事開催できました。本当にありがとうございました。

コロナ2年目ということもあり、開催を危ぶまれもしたのですが、一昨年とちょうど同じく、芸術祭のスタートとなります総合フェスティバルの時には、エアポケットのような、とても恵まれた状況下でございまして、創意工夫をしながら、無事開催できました。

また、デジタル化ということから、オンラインでの配信も実施し、とても好評でございました。

それから、今回はスマホで気軽にご覧いただけるようにしたところ、たくさんの方にご利用いただきまして、各方面から、盛岡に実際行くことはできないものの、県内各地で、スマホで気軽に見られる、或いは、リビングとかそういった場所で見られるという点が感謝されまして、今後もぜひ続けて欲しいという声をいただいております。また次年度につきましても、ご配慮いただければと思います。

よろしく願いいたします。ありがとうございました。

### ○高橋嘉行委員長

ありがとうございました。ただいまの柴田委員さんのお話については、次の令和4年度の予算の説明でもあると思いますけれども、今年度行った芸術祭を踏まえて事務局から何かお話があればよろしく申し上げます。

### ○事務局（文化芸術担当課長）

柴田委員がおっしゃられた通り、オンライン、これは令和2年度から実施いたしまして、初めて芸術祭をご覧になったという方もおられ、非常に好評でした。

今後につきましても、今後コロナが収束していった場合であっても、広い県土の岩手県において、芸術祭、或いは文化芸術イベントを広く鑑賞していただくには重要な取組と考えておりますので、毎年度の予算編成の中で、継続していけるように努めて参りたいと考えております。

### ○高橋嘉行委員長

総合フェスティバルにつきましては芸術文化協会の皆さんのご尽力、そしてまた多くの県民の皆さんの参加によって、非常に素晴らしいものとなったのではないかな、というように思います。皆様、大変お疲れ様でございました。

他の委員さん方、何かございませんでしょうか。

### ○木村敦子委員

指標について、「遅れ」とか、いろいろそういう、ちょっとマイナスイメージの成果指標が多かったな、と思って聞いていたのですが、実際、今は配信で、広い地域の方が、広く見ていただいているということもあるところ、来場者で換算してしまっているからこういう結果になっているのかな、と思ってもおります。

今後は、配信の視聴者数であるとか、SNSの「いいね」の数とか、そういう別の指標もプラスして評価していくことが必要になってくるのかな、思っております。

実際、岩手芸術祭もそうですが、ショパンコンクールも、ローザンヌバレーも、今は全部配信で、世界中の方々が見られるような状況になっており、その恩恵を私達も受けているということですので、一概にコロナ禍だから何もできないということではなく、できることを模索していけば、より芸術文化が広がるきっかけにもなるのかなと思って聞いておりました。来年も引き続き、配信がいっぱいあるといいなと思っています。

### ○高橋嘉行委員長

ご意見大変ありがとうございました。それでは事務局の方から。

### ○事務局（文化芸術担当課長）

オンラインの指標の考え方でございますが、今回、指標の見直しというものを行っておりますので、資料4でご説明させていただきます。

### ○高橋嘉行委員長

他の委員さん方、ございませんでしょうか。

それでは、ご質問等はここで一旦打ち切りとさせていただきます。次に進みたいと思いますが、何かご質問ご意見等あれば、ただいまの議題についても、後程まとめてご質問等いただいても結構ですので、よろしくお願いたします。

## (1) 協議

### ウ 文化スポーツ部における令和4年度の主要事業について

#### ○高橋嘉行委員長

それでは続きまして、ウの「文化スポーツ部における令和4年度の主要事業について」を議題としたいと思います。

#### ○事務局（文化芸術担当課長）

（資料3に基づき説明）

#### ○高橋嘉行委員長

ただいま令和4年度の主要事業、それから予算案等についてお話があって、皆様からご質問ご意見等あればよろしくお願ひいたします。

#### ○田口博子委員

いわてアーツコンソーシアム推進事業について、私、公共的な専門用語に疎くて、コンソーシアムという言葉がわからなかったので調べたのですが、時々こういうわからない用語がありまして、もう少し皆さんがわかる用語で、プロジェクトとかならもちろんわかるのですが、ちょっとわかりにくく感じたのは私だけだったのかなっていうところがあります。

それから、積極的に若い芸術家に意見を聞きながら、というようなお話がありましたが、どのような方たちを対象に、どのように意見を聞いていくのかっていうところをお聞かせ願ひたいと思います。

#### ○高橋嘉行委員長

はい。事務局、お願ひします。

#### ○事務局（文化交流担当課長）

若い方々の人選につきましてはこれから進めたいと思っております。来年度、若い方々に入っていた上で話し合いを進めていきたいということですが、岩手県の文化芸術、広く文化の特色として、世界遺産であるとか、或いは先ほどお話した障がい者の文化芸術の面において強みがあるとか、そういったところを踏まえ、このコンソーシアムの中では、広く文化芸術の公演とか企画とか、そういったところに若い方々の意見を反映させていきたいと思っております。年に大体3回程度、これからお願ひする予定の若い委員さん方にお集まりいただいて、意見を出していただく、ということをして現在のところは考えております。

#### ○高橋嘉行委員長

よろしいでしょうか。

#### ○田口博子委員

わかりました。ありがとうございます。

#### ○高橋嘉行委員長

それでは他にございませんでしょうか。  
熊谷委員さん。

### ○熊谷常正委員

今の田口委員の質問とも関係するのですが、レガシープロジェクトの中で、若手の育成ということがあるところ、いわゆる指導者の育成はもちろんですが、スペシャリスト、専門家をどのように育成していくか、というのが大きな課題になってくるのではないかと思います。

なので、職員の派遣、研修も含め、そうしたスペシャリスト、専門家を育成するというプロジェクトも考えていただければと思います。

文化財の仕事をしておりますと、絵画ですとか、彫刻ですとか、刀剣ですとか、工芸ですとか、本当にスペシャリストがいない。若手でも、もう50代60代になってきている。

その意味において若手を育成するということ、これまで研究者は、研究してその結果を活用してきたわけですが、もうそろそろ研究者を組織的に育成しなければいけない時代に入っているのではないかと思います。その辺もよろしくお願い致します。

### ○高橋嘉行委員長

はい、ありがとうございます。

それでは事務局、お願いします。

### ○事務局（文化芸術担当課長）

アーツコンソーシアム推進事業について申し上げますと、来年度はチームを設置して、若い方々の意見をお聞きする、ということでお話いたしました。先々にはそういった方々に、新しい魅力ある文化芸術の企画も担っていただきたいと考えておりました。企画をしながら、或いはその企画を実現しながら、若い方々に企画立案や運営する力を身に付けていただければと考えております。

### ○高橋嘉行委員長

ありがとうございます。他の委員さん、ございませんでしょうか。

それでは柴田委員。

### ○柴田和子委員

今の事務局からのお答えの中で、若い方々という言葉が何度か出てきましたけれども、例えばどういうところを指して、若い方々とおっしゃっているのか。

それからもう一つ、スペシャリストの育成の必要性は本当に大事なことだと思っておりますが、現在文化芸術コーディネーターが4地区にあるところ、こちらの現状と、新たなコーディネーターの募集というか、或いは任命というか、そういうことも考えておられると思うのですが、これが具体的なものになるのかどうか、そういった現実的なところについてお答え願えればと思います。

### ○高橋嘉行委員長

事務局、お願いします。

### ○事務局（文化芸術担当課長）

例えば、ということですが、今のところ特定のどなたか、というところまで至っておりません。いずれは文化芸術、舞台とか、そういったところに詳しい、専門知識、専門的な方々に入っていただきたい、というように考えております。

また、コーディネーターの関係ですが、先ほど来年度の予算のところでも説明したとおりですが、まず来年度も4地域においてコーディネーターを配置し、地域の文化芸術を振興

していきたい、とこのように考えております。

**○高橋嘉行委員長**

柴田委員さん、よろしいでしょうか。

**○柴田和子委員**

はい、若い方々についてはこれから人選、ということですね。  
県内にとどまらず県外からでも良い、ということになりますよね。

**○事務局（文化芸術担当課長）**

県内外は特に限定しません。

**○柴田和子委員**

わかりました。

**○高橋嘉行委員長**

はい。他にございませんでしょうか。  
板垣委員さん。

**○板垣崇志委員**

今のお話を伺いながら、考えたことが一つと、ご質問と意見があります。

確かに、文化領域の後継者問題は、例えば農業とか漁業の後継者難も非常に強く叫ばれているところではありますが、専門技術を受け継いでいる方々の母数、数がそもそも少ないということで、そうした一次産業領域よりも危機の状況としては本当に火急の問題なのだということをお話伺いながら思いました。

それで、そうした、本当に技術の継承が風前の灯火であるという問題に対して、行政の領域から何らかの支援になるような取組を、というのは全国的な問題だと思いますので、何か奏功しているような事例がないか、といった情報収集のようなところから、本当に火急の問題として、取組が必要なのかなと今伺いながら思ったところです。今のお話に対する感想でした。

あと、私からの質問、意見なのですが、3点ございまして、1つは、およそ5000万円の文化予算の、前年度に比べての減少ということですが、これは、平泉のガイダンスセンターの大きな予算が昨年度あったということが大きな要因なのかな、と思いながら伺っていたのですが、それで合ってますでしょうか、ということが1つ。

もう1つの質問は、アール・ブリュット巡回展について、来年度は、県内のみならず首都圏でも、ということで、この方向性は非常にいろんな可能性を感じさせる案だなと思って、今、ちょっと楽しみに思いながら伺っていたのですが、予算としては、前年度よりも抑えたものになるっていう、これはどういった部分に重点的に予算を充てて、どういった部分を削減したのかという、その具体的な内容ですね。予算と対応したその内容の部分を教えていただきたいです。

あと、こちらは最後に、意見なのですが、漫画文化について、海外にも積極的に発信していくと、おそらくこれ漫画による発信が、観光ですとか、或いは交流人口といったことにも、国内外を問わず、繋がっていくものなのかなというふうに思うのですが、現状のSNSでの発信ですと、少しプッシュ力が弱い面があるのかなということを感じております。

おそらく今ものすごくPR力が強いものはやはり動画コンテンツになるのかなというよ



うな感触があるのですけれども、例えば、こう、なんでしょうかね、今漫画がこう動画化されて、半分動画化っていうのですかね、ああいったものをなんと言うのかちょっとわからないのですけれども、絵が、こう、ちょっとデジタルな加工でこう動くようなアニメーションで、よくYouTubeでも広告が上がってきたりしますけれども、ああいったYouTube広告なども使って、もっとうこうプッシュを強くしている、或いは拡散力、強い拡散力を獲得するというような、あとSNSの活用戦略についても、方向性を再検討すると、より効果的なものが生み出せるのかな、というふうに感じました。

これは多分、平泉とか、そうですね、世界遺産関係の方のPRでもまた同じ手法が多分、使えるのではないかな、と思います。

おそらく、平泉があるとか、いろんな文化コンテンツが岩手にある、或いは東北にあると言ったとき、意外と、岩手の外にいる方々にとっては、それらが連動して、岩手という立地の中で、岩手という歴史の中にあるというイメージは、意外と希薄だったりするものではないかな、と思うのですね。

やはりそれを密接に結びつけるような、ビジュアルイメージ、キーになるようなキービジュアルを、動画コンテンツなどで強力に発信していくということは、国外に向けて発信して行くということが、今後の、さっき事業の柱の中にも人口減の対応ということがありましたけれども、そういった部分を担う交流人口の促進とかにも繋がってくる、効果が期待できるのではないかな、と思いました。

#### ○高橋嘉行委員長

2つのご質問と1つのご意見、ありがとうございます。  
それでは事務局からお願いいたします。

#### ○事務局（文化芸術担当課長）

来年度の文化振興課予算の減、5千万円の減につきましては、事業ごとに、様々増減はありますが、板垣委員おっしゃられた通り、ガイドンス施設の整備が今年度で一段落、開館したということで、その削減減少というのが、大きく反映されているというところでございます。

次に、アール・ブリュット巡回展の、首都圏で来年度実施する案になっているが、予算が削減されている、ということで、このあたりに対するご質問かと思っておりますけれども、これまで県内でアール・ブリュット巡回展、4地域で行って参りました。

ただ一方で、この事業は委託して実施しているものでございますが、受託業者さんの方で、ホームページに絵画をアップするなど、そういう新たな取組も加えられているところでは。

そういったことも踏まえ、県内の巡回展の箇所数を削減し、その分を首都圏で実施するような形で実施していきたい、というように考えているところでございます。

ただ、県内でアール・ブリュットが十分普及されているかということ、必ずしもそうではない部分もございますので、そういったことにも遺漏がないよう、取組を進めていきたいと考えております。

あとは漫画も含め、世界遺産とか、そういったものなど、動画を活用したPRということでございますが、こちらにつきましては、令和5年、来年度以降に向けまして、検討して参りたいと考えております。

#### ○高橋嘉行委員長

板垣委員よろしいでしょうか。

#### ○板垣崇志委員

ありがとうございます。今民間の、株式会社ヘラルボニーさんの活躍などもあって、大

分、障がいのある方のアートに関しては岩手がメッカというようなイメージも全国的に広がりがつつあるようだなっていうのを感じているところで、岩手から首都圏とか、そういった県外に向けて、アートの情報発信をしていくというのは非常に有効なことではないかなと感じます。ありがとうございます。

#### ○高橋嘉行委員長

それでは次に阿部委員さん。

#### ○阿部武司委員

昨年もお話したかもしれないのですが、県民会館での、フェスティバルの件なのですけどね。

今年は初めからリモートといいますかライブ配信をして、結構多くの方に見ていただいたようです。

そういう意味では非常に効果があったのではないかなと思うのですが、私は今回ただ見に行っただけだったのですが、内容的にはそんなに、突拍子もなく、関心の高いような取組ではないのではないかなと思うのですね。もっと、何ですかね、コロナ禍ということもあって、出演団体がなかなか選べないという事情もあったとは思いますが、やはりもっとこう、今回、ライブ発信ですから、岩手県内だけじゃなくて、県外に向けての、やっぱり情報発信という面もあったと思うのですね。

やはり、そういう点では先ほどのご意見も考えれば、やっぱり全国を視野に、岩手の民俗芸能を見せていくっていうスタンスも、これからは必要なのではないかなと思うのですね。

そういう意味で考えると、企画運営というものをもう少し若返らせる必要があるのではないかなというように思うのですよ。

私もいろいろな民俗芸能の方々とおつき合っていますが、むしろ若い人たちの方が、その思いっていうのは強いのですね。

そういう人たちがやっぱり企画運営できるような、やはり内容にしていけないと、コロナ禍以前から、やはり伝承活動っていうのは大変だっていうことが出てきて、若い人たちが頑張っているところは、私達が頑張っているから継承する、繋がっているわけですね。

そういう点で、私はよくわからないのですが、この文化スポーツ部で、文化振興の中で、民俗芸能を扱うということに関してはどうということなのかよくわからないのですが、本来文化財保護という観点から扱うべきものなのですけど、そういう点で、文化財保護という対象でもある民俗芸能なわけですから、やはり継承に繋がるような、企画運営っていうのを今後考えていって欲しいなと思うのですね。

やはり教育委員会の文化財課と連携しながらですね、やらないといけないと思うのですよ。

やはり、このイベント化の中だけで民俗芸能が使われていくっていうことは、将来的には、そういう方向で民俗っていう姿をなくしていく可能性があるわけですよ。

ですから、やはり、ここは縦割りじゃなくて、横に連携を持ちながらやってくっていくことと、できれば、若い民俗芸能の継承者たちを集めるような、企画や発表。こういうフェスティバルじゃなくて、シンポジウムとかですね、そういうものも企画してですね、もっともっと若い人の意見が表に出てくるような、いわゆる旧来の伝承方法ではないということになっていくわけですから、若い人たちがどんな民俗芸能というものを求めながら、いわゆるその文化財保護っていう観点とすり合わせていくかっていうことを、今後も考えていけるような、いわゆる、施策が欲しいなと私は思っております。

以上です。

#### ○高橋嘉行委員長

はい、ありがとうございました。

## ○事務局（文化芸術担当課長）

教育委員会との連携ということでございますが、こちらにつきましては県庁内の組織でございますので、これからまた一層連携を密にしながら取組を進めていきたいと思っております。

また、民俗芸能の若手のお話でございますが、1月16日に開催しました民俗芸能フェスティバル、阿部委員さんがいらした際のものですが、東京都の長崎獅子舞という団体にもご出演いただいていたのですが、そちらの東京都の団体とですね、令和2年度も令和3年度も、その長崎獅子舞、東京の若手の方々と、民俗芸能フェスティバルに出演する県内の若手の方々と、交流の場というのを、実は計画しておりました。

その場で、都会で民俗芸能に取り組む若者と、県内で民俗芸能に取り組む若者とで、刺激を受けながら、さらに発展していけるような、そういった形にしていきたいと思っていたのですが、この2年、直前にコロナの感染が広がってしまい、公演には出演いただいたのですが、前日の交流会というのができなかったのですね。

なので、そういった機会をこの2年間持てませんでしたので、その辺は、せっかくその長崎獅子舞さんとも2年続けて交流ができましたので、若手の方の育成とか、その運営に関わるってというような視点は大事だと思いますので、この取組を、3年度で終わらせることなく、来年度以降も、若手というところで、着目して取組を進めていきたいと考えております。

## ○高橋嘉行委員長

どうぞ、阿部委員。

## ○阿部武司委員

長崎獅子舞もいいのですけれど、やっぱり私は県内をね、今ね、重視すべきだと思うのですよ。

この震災の中で、沿岸の若者たちが芸能からやはりどんどん復興につなげていったという経緯もありますから、そういう10年、この震災後の10年間の若者の活動を、岩手県で評価していかないと駄目だと思うのですよね。

別に人のために頑張っているわけじゃないのですけれど、やはりこうやって政策を押し進める側とすれば、そういう若者を、頑張っている若者を応援するってことが非常に重要であって、それがなぜ民俗芸能なのか民俗文化なのかってことはね、今考えなくちゃいけないと思うのですね、いっぱいその芸術文化があるのだけど、その中で苦勞しながらやっぱり民俗芸能ってものを継承するっていう、そういう重い荷物を背負いながらやっているわけですから、やはり県内の人たち、広く、県北から沿岸から県南からすべて広くやっぱり目を向けてですね、そういう人たちをすくい上げてくってというのがやっぱり県の仕事だと思います。

そういう意味では、今まで民俗芸能フェスティバルというのは、ほとんどもうマンネリなのですよね、ある意味でね。

確かに長崎を入れた、ちょっとリモートでやった、いろいろやったってことは、確かに新規性はあるのですけれど、やっぱりそれでは、今やっている若者は救われないうですよ。岩手県の。そういう人たちのためにももっと積極的な方法を、考えていく。

それは私ではなくて、やはり今活動している若者たちをどうそういう場に引き上げていくかっていうところだと思うのです。

ですから、県、ぜひそういう人たちを引き上げて、シンポジウムをやるとか、何かしてですね、施策に反映させるようなことをぜひやっていただきたいなというふうに思いますね。

## ○高橋嘉行委員長

ありがとうございました。

ただいま阿部委員の強いご意見をお伺い致しましたけれども、今後の施策展開にあたって、本日のご意見等を踏まえた上で、ご検討いただくということによろしいでしょうか。

それでは他の委員さん方もまだまだご発言あるかと思いますが、予定の時間が迫っておりますので、申し訳ございませんが議事を進めさせていただきたいと思っております。

## (2) 報告

### 文化スポーツ部における令和4年度の主要事業について

## ○高橋嘉行委員長

それでは続きまして、(2)の報告でございます。

「新型コロナウイルス感染症による「第3期岩手県文化芸術振興指針」指標の見直しについて」を事務局からお願いします。

## ○事務局（文化芸術担当課長）

（資料4により説明）

## ○高橋嘉行委員長

はい、ありがとうございました。

ただいま報告いただいた内容につきまして、ご質問等ございませんでしょうか。

## ○木村敦子委員

木村です。

指標の数ですが、オンラインとリアルとを分けて記載していただいた方がいいのかな、と思います。今累計でまとめた形になっているのですが、その辺は分けて教えていただけるものでしょうか。

## ○事務局（文化芸術担当課長）

指標の資料自体については合算の形で、指標の進捗は管理して参りますが、オンラインと生での鑑賞というのを分けてお知らせする、資料としてお示しする、ということでは可能ですので、そういった形でお知らせしていきたいと思っております。

## ○木村敦子委員

多分、リアルで見られた方と、オンラインで見られた方の数というのはやはり違う、明らかにオンラインの数が多いじゃないですか。分けておかないと後で、なんというか、オンラインのための指標が今度逆に必要になってくるような気がするのですよね。

オンラインが何でこんなに視聴率が低かったのか、といった話も出てくるような気がするのです、累計でまとまっておりますが、分けて考えておいた方がいいような気がします。

## ○高橋嘉行委員長

ありがとうございました。

それでは齋藤委員、お願いします。

## ○齋藤桃子委員

オンラインという修正がたくさん加わったことについて、現実とバーチャルとのことについて、実感をお話させていただきたいということなのですけれども、私は美術館に勤め

ておりまして、屋外の美術館だということもあるのですが、今年、過去最高の来場者数をいただいているのですけれども、皆さんがリアルな体験を求めて、ここにいらっしやっただけだということはこの2年間ぐらい実感しています。

バーチャルでのオンライン配信ですとか、そうした体験が広く行き渡る、ということはもちろんその通りなのですが、例えば発表されている舞台をそのまま配信する、或いは展示室を写して、美術館の体験をしてもらう、というだけでは、バーチャル体験としては現実の劣化版でしかない、というふうなことも実感するようになって参りました。

ですので、オンライン配信というのはとても可能性があるだけに、現実の劣化版ではなくて、新しい楽しみや、発見の要素を加えたような配信まで突っ込んでいけると、より可能性が広がってくるのではないかな、とこの2年間ぐらい、コロナ禍で、美術館で働いていて思っております。

簡単なことではないと思いますが、例えば民俗芸能の発表をオンラインでされるときにも、例えば副音声をつけてみて、解説を一緒に聞くことができるとか、美術館でも展覧会を企画者がその企画の意図を一緒にお話しながら配信する、といったようなことがされておりますので、単純なオンライン配信ではなく、プラスアルファの要素を持ちながらの取組が増えてくるといいな、と思っております。

お願いというよりは希望というような感じで、以上です。

#### ○高橋嘉行委員長

ありがとうございました。事務局から。

#### ○事務局（文化芸術担当課長）

公演等につきましてはやはり現地でご覧になっていただくのが一番だろう、というふうに思っていますが、一方で、近年はコロナ禍を踏まえまして、オンラインというものに取り組んで参りましたが、オンラインの取組がまだ1年、或いは2年といったところで、まだまだなのだと思います。

録画といいますか、動画をそのまま配信しているような形なのですが、今ご指摘いただいたような、プラスアルファの部分、そういったところは今後、オンラインの取組を積み重ねていく中で、どういったものができるかというようなことを、他県の例も参考としながら、検討していきたいと思っております。

#### ○高橋嘉行委員長

ありがとうございます。それで一旦よろしいでしょうか。齋藤委員。

#### ○齋藤桃子委員

はい。

#### ○高橋嘉行委員長

他にございませんでしょうか。上田委員さん。

#### ○上田吹黄委員

音声聞こえておりますでしょうか。初めて私も Zoom に参加させていただき、デジタル方面に疎いものでしたが、いい機会を与えていただいたと思っております。

文化事業の方もコロナ禍ということで、大変ご苦勞をなさって、様々な事業を進められておられますが、こうした時代状況に対応するために、やはりデジタル化、オンライン化ということが、そうしたツールを使った文化事業の推進が、非常に期待される、大切になってくる時代だな、と感じております。

若い人たちは、比較的デジタルに精通してらっしゃるかな、というふうに思いますが、

高齢の方も、若い方も、県民皆さんが年代層にかかわらずデジタルの恩恵を受けて、文化芸術に親しめるというような状況を、これからはもう作っていかねばいけないので、様々な事業計画をデジタル化という形で進めていかれると同時に、苦手な人たちもデジタルを使いこなせるように、デジタル技術の講習というかですね、そういったこともセットとして、支援をしていくということも、大事になっていくのかな、というふうに感じましたので、事業を進めるとともにそうした方面の、普及活動もあわせてお願いしたいというふう感じたところでございます。よろしくお願ひいたします。

#### ○高橋嘉行委員長

ありがとうございました。県からありますか。

#### ○事務局（文化芸術担当課長）

文化芸術に限って言いますと、例えば芸術祭の総合フェスティバル、あるいは、民俗芸能フェスティバルでは、オンライン配信をあらかじめ、例えば、リーフレットを作成したり、ホームページでご案内したりということを行うことで、そういったパソコンとかスマホとかに詳しくない方でもご覧になっていただけるような工夫を、周知の部分で行っていきたくて考えております。

#### ○高橋嘉行委員長

よろしいでしょうか。他にございますか。板垣委員。

#### ○板垣崇志委員

先ほど齋藤委員がおっしゃった、そのプラスアルファのオンラインっていうものを実現するにあたって、おそらく、県の方で、そういった業者を外注するか、委託事業者を募集するか、というような形になるのだと思うのですけれども、それはやはり、どういった要素を仕様書の中に盛り込むかというようなことであるとか、或いは業者選定に当たっても、どういう事業者を、企画力のある事業者ですね、を選定するにあたって、やはり、予算だけで判断するのではないような、例えばプロポーザル形式を積極的にご活用いただくなど、内実を見極めた選定ができるような流れで進めていただくと良いのかなと思いました。

いかに魅力的な情報コンテンツを作成できるかが成否を分けると思いますので。

もう一つ、先ほど阿部委員の方から出た郷土芸能に担い手、若手の担い手、こちらはやはり横の連携っていうものが現状おそらく希薄で、そのコミュニケーションっていうものが後押しされることで、郷土芸能の活性化に繋がるということなのかな、と思って伺っていました。

新規のシンポジウムなどを企画するのではなくとも、現行の既存の事業に何かプラスアルファする形で、大きな予算をかけなくても、そういった後押しというのは可能なのではないかな、と思いますので、ぜひその実現可能性というのを探っていただきたいものだなと思って、お話伺っておりました。

#### ○高橋嘉行委員長

ありがとうございました。それではご意見を頂戴したということでよろしいでしょうか。

#### ○板垣崇志委員

はい。

## ○高橋嘉行委員長

本日はそれぞれの委員さん方から様々なご意見、それから県に対するご提言を頂戴いたしました。

現在の状況というのはコロナでございますとか、それから人口減、高齢化、なかなか今日の感じでは重いお話になったのかな、というふうに思っておりますけれども、こういう中で、いかに岩手を元気づけていくかと、様々、今日いただいたご意見の中では、民俗芸能のあり方ですとか、それから障がい者芸術のあり方、様々な視点から、ご意見を頂戴いたしました。

今まさにオリンピックが開催されておりますけれども、岩手の出身の若人、スポーツの分野もそうですし、それから今年を振り返ってみますと、小中学校高校と、合唱とか文芸とかですね、いろんな岩手の若者たちの活動、活躍っていうのが、大きくクローズアップされた年ではないのか、こういう力が、これからの岩手を元気づけていくということで、この審議会の皆さん方にも、これからの岩手の文化芸術を一層盛り上げるように、今後ともよろしくお願い申し上げたい、というように思います。

それで今日この初めて上柿委員さん、委員としてご出席いただきましたけれども、上柿さんには、全国高文連の会長を担っていただいていると思っておりますけれども、最初の審議会に参加していただいた感想も含めまして、学校教育の中でコロナ禍のこうした状況で、どうありがたいというふうに思っているか、その辺の所感も含めまして、ご発言いただければありがたいなと思っております。

## ○上柿剛委員

発言の機会をいただきましてありがとうございます。今日は本当に勉強になりました。ありがとうございます。

今高橋委員長がおっしゃられた通り、今年度、岩手県の高校生が全国で活躍しました。日本一になったものだけ挙げても、合唱ですとか写真ですとか、あと文芸の中の小説の創作ですね、そういったものは日本一となりました。いずれもその指導者として、しっかりした方が学校に在籍しているということが挙げられますので、先ほどもあったように、やはり高校に限らず、指導者を育成するということがとても大事なのかなと感じたところです。

また県のホームページにも、岩手県は郷土芸能の宝庫という言葉を使っておりますけれども、それは高校生についても言えることで、全国大会等でもやはり岩手県の郷土芸能は非常にバラエティが豊富です。

太鼓だけではなく鬼剣舞、鹿踊り、中野七頭舞、虎舞、さんさ踊り等、郷土芸能の宝庫だと言われております。

今、高校の中で郷土芸能に取り組んでいる学校は18校あるのですが、そこはみな地元郷土芸能保存会の方々にご指導いただいております。そういったところでしっかりと伝統が受け継がれていっているのかな、と感じたところです。

最後に1点だけ、先ほどデジタル化の話が出てきましたけれども、今年度やはり高校生は運動部文化部とも、ほとんどの大会が無観客で行われました。

運動部の生徒たちにとっては勝敗というのが一番大事なわけなのですが、文化部の生徒たちにとってはパフォーマンスを見てもらう、聞いてもらうというのが非常に大きな要素だと思います。

ですからデジタル化を進めるのはとてもいいことだとは思いますが、何とか観客が入って一緒に感動を盛り上げるような時が早く来ればいいな、と思っております。

私からは以上です。

## ○高橋嘉行委員長

ありがとうございました。

今日ご発言の機会を差し上げられなかった見年代委員と佐藤委員、申し訳ありませんが、

次回よろしくお願ひいたします。時間の関係上、申し訳ございません。  
よろしいでしょうか。

**※以下は別途御意見をいただいたもの。**

**○見年代瞳委員**

地域で活動する小規模団体への支援について、地域の文化芸術（特に地方）を支えているのは小規模の団体が多いです。

コロナ禍で、文化芸術で生計を立てるプロや関係者が困窮している、市民や子供たちの鑑賞の機会が減っているといった意見は多く、そこに対する支援は色々検討されておりますが、意外と、地域の小規模団体を支援するような事業は少ないなあと感じております。コロナ禍で活動が縮小し、そのまま活動停止に至る団体も出てきております。

プロや指導者の支援育成といった上からの支援と下を支える支援の両方があるこそ、豊かで特色ある文化芸術が継続できるのかなと思ひました。

また、Facebook 以外の活用について、前回か前々回の委員会でも出されておりましたが、若者の Facebook 離れが顕著だと感じております。

実は、別件で、高校生を対象にしたアンケートを実施し、現在、集計中なのですが、100人程度の集計が終わっている時点で、情報収集に使う SNS で Facebook をあげたのは 2 名のみでした。このことから、広報、特に若者にも情報を届けたいというのであれば、他の SNS も活用も検討する必要があるだろうと感じております。

**(3) その他**

**○高橋嘉行委員長**

それでは、「その他」ということで、事務局からなにかございませんか。

**○事務局（文化芸術担当課長）**

ございません。

**○高橋嘉行委員長**

委員の皆様方から最後でございますけれども、その他の部分で何かございましたらお願いいたします。

熊谷委員さんお願いします。

**○熊谷常正委員**

一つだけお願いします。県政 150 周年記念事業の取組が始まるようですけれども、文化振興課としては具体的にどのように対応なさるのでしょうか。

**○事務局（文化芸術担当課長）**

現在のところは、150 周年に関しまして、文化振興課として特に関係するような事業は計上してございません。

**○高橋嘉行委員長**

今後どのような方法とするか、その辺、本日いただいたご意見等も踏まえて、ご検討いただければと思ひます。

本日様々のご意見頂戴しました。今後県議会もあります、その中で、予算事業については、本日いただいたご意見等を踏まえて審議していただきたいと思ひますし、それから、



必ずしも予算ということではなく、ネットワーク、まずソフト面での対応というようなこともあると思います。

元気を出してですね、この岩手の文化を盛り上げるような取組を是非とも、一緒になって進めて行きましょう。

ということで、本日の会議は以上で、私、議事、進行役を降ろさせていただきたいと思えますけれども、皆様大変ご協力ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。

#### **4 閉会**

##### **○事務局（文化振興課総括課長）**

委員の皆様、長時間にわたりご審議、そして貴重なご意見ありがとうございました。今後の取組の参考としたいと思います。

それでは本日の審議会はこれもちまして閉会といたします。

本日はありがとうございました。